

槐

かい

岡井省二創刊

令和4年8月号

令和四年八月一日発行 第三十巻第八号 通巻第二百四号（毎月一回）日発行
平成三年九月十八日第二種郵便物認可



薬玉

高橋将夫

竹皮を脱ぎ竹らしくなりにけり
この日には地獄の釜も菖蒲風呂
闘牛に男がみせる涙かな
自らの歩みを孫に見る端午

子離れはとつくの昔子供の日
母の日の父の遺影の若さかな
菖蒲の香残りし妻のバスタオル
最年少記録の期待若葉風
わけありの苺を食べてしまひけり
絞りたる智慧の一滴滴れる
葉玉や住みにくくなる水の星

日 月 抄

高橋将夫 推薦

大	は	パ	夕	ゆ	初	花	銀
根	ん	ン	映	ら	夏	曇	紙
の	ぎ	の	え	ゆ	の	生	を
花	き	焦	の	ら	香	き	ま
に	の	げ	紫	と	は	て	る
審	も	匂	陽	園	人	朗	め
判	つ	ひ	花	児	を	ら	て
仰	と	た	の	の	求	か	広
ぎ	生	つ	海	散	道	寄	ぐ
た	き	か	浮	歩	的	ら	春
り	貌	に	遊	葱	に	ば	の
	あ	麦	す	坊	す	槐	海
	り	の	る	主	る		
		秋					

久	井	柴	阪	中	中	高	出
保	上	田	倉		西	野	利
夢	静	靖	孝	貞	厚	昌	葉
女	子	子	子	子	子	代	孝

つつましく生き十葉の花盛り

中島昌子

菜の花の弁当箱のぬくみかな

竹村 淳

運転手子らに涼しき挙手かへす

橋本順子

想はれて命つたへて花は葉に

阿部さちよ

テノールの天地謳歌の雨蛙

庄司久美子

夏を呼ぶ呪文なりけり開け胡麻

竹中一花

しりとりはきりんでをはる子供の日

柳橋繁子

母の日のいつもの家事をいつものやうに

岡田桃子

春光の方へ引ききたる刺しゅう糸

星野昭子

槐集

高橋将夫選

銀紙をまるめて広ぐ春の海

大阪 出利葉 孝

衣更へ衣術は肩の荷を下し

畦道は私の舞台踊子草

ボタン一つ外した胸に初夏の風

脳トレに躑躅といふ字書いてみる

花曇生きて朗らか寄らば槐

枚方 高野 昌代

深吉野の残花を惜しみ余生知る

古時計ぽんと叩けば夏^{サマー}時^{タイム}間

樟若葉大和の国の神の息

自己批判出来ぬ己に薔薇の刺

初夏の香は人を求道的にする

守口 中西 厚子

夏きざす空気で惹かれ合ふ二人

思ひ出も声も姿も海霧の中

潔し散る決意して散る桜

ぬくもりの残るベッドや半夏生

明易の夢はさらさら消えにける
枚方 中 貞子

ゆらゆらと園児の散歩葱坊主
紫陽花の山に曼陀羅図を見たる
使ひ古し大腿骨や蚯蚓なく
あらかたのことは終へたり月涼し
笑ひ声天へ筒抜け夏来たる
夕映えの紫陽花の海浮遊する
緋牡丹や今を生きるは歡喜なる
極楽へ寄り道したる道をしへ
手鏡へ笑まふ人あり桐の花
パンの焦げ匂いたつかに麦の秋
すれ違ふ人なつかしきオーデコロン
小満や命思ひて爪を切る
水の流れを楽ししまむ五月かな
黄昏るる五月の空を憂ひけり

岡崎 柴田 靖子

阪倉 孝子